

## ●全国・県の学力・学習状況調査より

4月に実施された学力・学習状況調査の結果（概要）は次の通りです。

### 〈1年生〉県調査（国語・数学・英語）

・3教科ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」において、県の正答率を上回っていた。

### 〈2年生〉県調査（国語・数学・英語）

・国語・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」において、県の正答率を上回っていた。

・数学・・・「知識・技能」については県の正答率と同程度だが、「思考・判断・表現」についてはやや県の正答率を下回っていた。

・英語・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」において、県の正答率と同程度。

### 〈3年生〉全国調査（国語・数学・英語）

・国語・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国正答率を上回っていた。

・数学・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国正答率と同程度。

・英語・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」において、やや全国正答率を下回っていた。

3学年とも無解答は少なく、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことや、グラフ等の資料を使って書く問題に対して、積極的に取り組めていました。

今後も、分かりやすい授業を心掛けるとともに、振り返りシートの確認や小テスト等を行うことで、定着度を常に分析把握し、補充の時間を設けるなど、具体的な手立てを講じていきます。

また、授業では自力解決の時間や友達と意見交換する時間を計画的に設けて、考えを深められるように工夫していこうと考えています。

## ●「読解力（読む力）・思考力（考える力）」を鍛えましょう

「ことねさんのクラスは14人で、今1列にならんでいます。ことねさんの前に7人います。ことねさんの後ろには何人いますか。」（小学校で出題）



「 $14 - 7$ 」という引き算ができてこの問題は解けません。文章を読む力、文章で描かれる状況をイメージし、どの数字を使ってどう演算するかを考えないといけません。これからは、このような知識を応用する思考力が重要になります。

ここでは「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」の著者・新井紀子教授が勧める「家庭できる読解力を鍛える方法」を紹介し、参考にしてください。

### 1) ラジオでニュースなどを聞く

・テレビのように視覚情報が入らない分、言語や数字に敏感になる。新井さん曰く「耳が鋭くなるので授業の聞き方も変わってくるでしょう」

### 2) 「おねだり」はプレゼンテーション（説明）の場に

・親子の会話の中で説明させる。新井さんは子どもが「何か買ってほしい」と言ってきたら、納得できる理由を言うまで買い与えなかったそうです。「『なぜ買わないといけないの?』『みんな持っているという“みんな”とは誰?』のようにプレゼンさせていました」

### 3) 日常会話は単語で済ませない

・新井さんは、子どもが「コップ」と言ってきたら、「牛乳を飲みたいからコップを取ってください」という文章で言うまで渡さないほど徹底していたそうです。

※ 入試などの面接のためにも、日常会話の中でも文章できちんと説明する習慣を身につけておきましょう。

※ 次号から新井紀子教授の著書の中で取り上げられた「読解力」に関する問題を紹介していきます。